

令和元年度

高知県高校生津波サミット 報告書

私たちから未来に紡ぐ
～高校生から広げる防災～



高知県高校生津波サミット



高知県教育委員会

高校生の皆さんへ

平成 28 年 11 月、世界津波の日の制定に合わせ、本県黒潮町において、『世界津波の日』高校生サミット in 黒潮」を開催しました。日本を含む世界 30 カ国の高校生が一堂に会し、高校生にできる防災活動について議論を深め、「黒潮宣言」を採択しました。

この宣言では、高校生が防災リーダーとしてそれぞれの国や地域で活躍していく決意が述べられ、「学ぶこと」「行動すること」「創る（創造する）こと」の 3 つの項目について、具体的にどのような防災活動を行っていくのかを示しています。

県では、この「黒潮宣言」に基づき、これからの高知県の未来を担う高校生が、それぞれの地域で積極的に防災活動を行うリーダーとして成長し、活躍することを目的として、「高知県高校生津波サミット」の一連の取組を進めています。

本年度、この高知県版サミットに実践校として参加した高校生たちは、学習会や宮城県への被災地訪問、北海道で開催された『世界津波の日』2019 高校生サミット in 北海道」への参加により、被災された方や世界各国の高校生との交流を通して、震災への知見や防災活動への意欲を高めるとともに、各学校や地域において様々な防災活動を展開してきました。

令和元年 10 月に開催した「高知県高校生津波サミット」では、県外からの参加校も含め、県内のほとんどの高等学校から代表生徒が参加し、学校の特色を活かした実践校の取組の報告から、「助かる人、助ける人になるために～今、私たちにできること～」をテーマに、高校生として自分たちに何ができるかを考え議論することで、防災活動への意識と新たな取組への意欲を高めることができました。

近年は、地震災害のみならず、全国各地で気象災害による大きな被害が発生しており、今後も気候変動による気象災害の激甚化が懸念されています。

自然災害から、自分や大切な人の命を守るためには、正しい情報に基づき判断し行動することが重要です。

この報告書は、「高知県高校生津波サミット」の一連の活動を取りまとめたものです。今後、各学校において、この報告書も参考にしながら、皆さん一人一人が「学ぶ」「行動する」「創る（創造する）」防災活動に取り組んでください。

自然災害の発生を防ぐことはできませんが、災害から命を守ることは可能です。いかなる状況においても、命を守る行動ができるよう、学び続けていきましょう。

高校生として、自分たちにできることを考え、発信していく、若き防災リーダーとして、人とつながり、地域社会とつながり、自らの力でこれからの未来を切り拓いていくことができる皆さんの今後の活躍を心から期待しています。

令和 2 年 3 月

高知県教育長 伊藤 博明

目次

1. 黒潮宣言	1
2. 「高知県高校生津波サミット」の取組	3
学習会	4
被災地訪問（宮城県）	5
「『世界津波の日』2019高校生サミット in 北海道」	6
3. 令和元年度高知県高校生津波サミット	7
開催要項	8
参加校一覧	9
主催者挨拶	10
来賓挨拶	11
講演	12
被災地訪問（宮城県）報告	14
「『世界津波の日』2019高校生サミット in 北海道」報告	15
防災活動 報告	16
グループ協議	17
実践校の決意表明	42
高校生代表挨拶	46
感想	47
高校生へのメッセージ	51

The Kuroshio Declaration

To commemorate the establishment of “World Tsunami Awareness Day” at the United Nations General Assembly, for the past two days, on 25th and 26th of November 2016, we have gathered at Kuroshio Town, Kochi, which is predicted to suffer from significant damage by a devastating tsunami the Nankai Trough earthquake may cause.

Natural hazards bring severe damage across the world, and many people face having to recover their communities as a result. Although the diversities in countries and regions we live in may create differences in disasters caused by natural hazards we face and our approaches to disaster risk reduction, we all share the common goal of saving all human lives from disasters.

Today, as high school students from around the world, we have learned about what we should and can do to achieve our goal and to contribute to recovery of disaster affected areas.

We hereby declare that we will continue to make our best effort to understand the risks and effects of tsunamis, to pass onto our predecessors’ experiences and knowledge of disaster mitigation and risk reduction to future generations, and most importantly, to save people’s lives from tsunamis and other hazards.

- 1 We will learn.
 - We will obtain correct knowledge on the mechanisms of natural hazards, and the history of damage and disasters so that we can enhance our understanding of—natural hazards and their risks.
 - We will learn and study knowledge, skills, and actions that are useful for disaster risk reduction to save people’s lives.
 - We will learn how to face hazards and how to live our lives from people who have experienced such disasters.
 - We will utilize technology to enhance our learning.
- 2 We will take actions.
 - We will keep reminding people of the risk of disasters caused by natural hazards and constantly carry out educational activities to raise people’s awareness of disaster risk reduction.
 - We will recognize ourselves as people who offer help to others instead of people who receive help and we will actively participate in volunteer activities that consider others.
 - We will contribute to community development as members of the community through activities such as proposing actions for disaster risk reduction to the local community and national and local governments.
- 3 We will create.
 - By utilizing our acquired knowledge and skills, we will create useful tools and systems for disaster risk reduction for all kinds of people.
 - We will create global and regional networks of high school students to learn together and cooperate with each other so that we can live together with our friends in the world.
 - We will make use of our wisdom and vitality as future leaders for disaster risk reduction. We will not only revitalize the development of local communities, but also contribute to making our cities and countries more resilient to hazards for the sake of ourselves and children in the future.

While appreciating the blessings of nature and understanding the risks that nature sometimes brings about disasters, we will love and live with nature without fearing those risks.

November 26, 2016

High School Students Summit on “World Tsunami Awareness Day” in Kuroshio

黒潮宣言

国連総会において「世界津波の日」が制定されたことを記念し、私たちは、世界 30 カ国から、2016 年 11 月 25・26 両日、南海トラフ地震による甚大な津波被害が想定される高知県黒潮町に集まりました。

世界各地で自然災害が大きな被害を及ぼし、多くの人々が復興に立ち向かっています。

私たちの住む国や地域は多様であり、発生する自然災害や、防災に対する取組も様々ですが、すべての人々の命を守りたいという願いは同じです。

今日、世界の友と、災害から人々の命を守るために、そして被災地の復興のために、私たちは何をすべきか、また、どのような取組ができるのかを学び合いました。

このサミットを通じて、世界での津波リスクと津波による甚大な影響を認識し、先人たちの防災・減災の志を後世に伝える責務を引き継ぎ、津波災害をはじめとする災害から一人でも多くの尊い命を守るため、できうる限りの努力をする決意をここに宣言します。

1 私たちは学びます。

- 自然災害への理解を深めるため、それらの仕組みや被害、過去の歴史を正しく学びます。
- 人々の命を守るため、防災に役立つ知識や技術・取組を学び、研究します。
- 被災した方々から、私たちはどのように災害に立ち向かい、どのように生きるべきなのかを学びます。
- テクノロジーを駆使して学びます。

2 私たちは行動します。

- 自然災害の記憶の風化を防ぎ、防災意識向上のための啓発活動を絶やさず行います。
- 助けられる人から助ける人となる自覚を持ち、人々の心に寄り添うボランティア活動を積極的に行います。
- 防災への取組を地域社会と行政に提案するなど、地域社会の一員として地域づくりに参画します。

3 私たちは創ります。

- 学び得た知識や技術、若者らしい斬新な発想をもって、あらゆる人の防災に役立つ物や仕組みを創造します。
- 世界の友と生きるため、地域や国を越え、共に学び、協力しあう高校生間のネットワークを創出します。
- 次代を担う防災リーダーとして知恵と行動力を発揮し、私たちと未来の子ども達のために、地域の活性化はもとより、災害に強い街や国づくりに貢献します。

そして、自然の恵みを享受し、時に災害をもたらす自然の二面性を理解しながら、その脅威に臆することなく、自然を愛し、自然と共に生きていきます。

2016 年 11 月 26 日

「世界津波の日」高校生サミット in 黒潮

「高知県高校生津波サミット」の取組

令和元年度
実践校 16校

6月9日(日)

■「高知県高校生津波サミット」学習会

場所：高知県立大学 永国寺キャンパス
参加：16校 生徒46名 教員17名 計63名
内容
○「高知県高校生津波サミット」について
○講話「南海トラフ地震に備える高知県の取組」
講師 高知県危機管理部 副部長 浦田 敏郎
○各学校の取組状況・意見交換 など



各校で「黒潮宣言」に基づき、
取り組む内容(アクションプラン)を決定し
主体的な防災活動を実施

- ◆学ぶこと 自然災害の仕組みや被害 防災に役立つ知識や技術
生き方 など
- ◆行動すること 啓発 ボランティア 取組提案 など
- ◆創ること 防災に役立つ物・仕組み 協力しあうネットワーク
災害に強い街や国 など

7月28日(日)～30日(火)

■被災地訪問

場所：宮城県多賀城市 など
参加：11校 生徒28名 教員11名 計39名
内容
○宮城県多賀城高等学校との交流
○仙台市、東松島市などでの震災学習



9月10日(火)・11日(水)

■『世界津波の日』2019 高校生サミット in 北海道

場所：北海道札幌市
参加：5校 生徒11名 教員5名 計16名
内容
○分科会
○全体協議 など



取組発表

10月27日(日)
高知県高校生津波サミット

場 所：高知県立ふくし交流プラザ
参加者：県内の高等学校、特別支援学校、教職員、防災関係者・行政関係者など
計232名
内 容：○実践校の取組発表・意見交換 ○講演 ○全体協議

次年度の取組に反映

「高知県高校生津波サミット」学習会

- 令和元年6月9日（日）
- 高知県立大学永国寺キャンパス
- 高校生名46名 引率教員17名 参加

<内容>

(1) 「高知県高校生津波サミット」について

学校安全対策課

- ・「高知県高校生津波サミット」の目的と取組内容

(2) 講話「南海トラフ地震に備える高知県の取組」

講師 高知県危機管理部 副部長 浦田 敏郎

- ・南海トラフ地震の起こる仕組み
- ・南海トラフ巨大地震による地震・津波の想定
- ・南海トラフの巨大地震による被害想定
- ・高知県の取組（これまでの取組の成果）
- ・第4期計画における10の重点課題

(3) ワークショップ

- ・自分自身の現状を知る・気付く・考える
- ・学校の現状や今後についての協議



学習会 振り返りシートより（抜粋）

①「南海トラフ地震に備える高知県の取組」から

- ・高知県が今までに取り組んできた地震に向けての対策を初めて知りました。できるだけ多くの人に知ってもらいたいと感じました。地震津波のメカニズムを理解し「いつ起きるか分からない地震」のために備えをしていきたいです。
- ・命を守る、命をつなく、生活を立ち上げる、すべての過程において対策を行っていることを知ることができました。各家庭でも家具の固定や食料を保存など、南海トラフ地震が起こるという意識を持つことが大切だと思います。一人一人ができることから対策をする必要があると思います。
- ・特に印象に残ったことは、県民や県がしっかりと過去の災害を顧みていることです。県民の防災意識は伸び悩んでいると言えども、2019年時点で70%もの人々が意識を持っていて、耐震化や避難設備の保有率は、2013年から大幅に増加、予想死者数がどんどん減っているのので、このままいくと被害を最小限に抑えることもできると感じ、少し希望が持てました。

②学校の取組状況・意見交換から

- ・各学校からの発表にもあったように、みんなが防災に関わり、学べる時間を作ることが大切だと思いました。
- ・他校の防災の取組を知る機会がなかったので、自分たちの学校にも取り入れたいと思いました。防災食や避難所生活体験も取り入れていきたいです。
- ・他校の方と意見交換をして、防災グッズの開発や観光地の避難マップ、防災植物のレシピ考案などの取組を初めて知ることができました。自分たちもやってみたいです。

「高知県高校生津波サミット」被災地訪問

○令和元年7月28日（日）～7月30日（火）

○宮城県多賀城市 など

○高校生 28名 引率教員 11名 参加

<内容>

- (1) 仙台市震災遺構 荒浜小学校訪問
校舎の被害状況や被災直後の写真から津波の脅威を学んだ。
- (2) 名取市閑上地区震災学習
震災慰霊碑等を巡り、現地の語り部の方から、発災時の津波や被害の状況を知る。避難行動の在り方や復興の難しさを学んだ。
- (3) 被災企業地訪問
震災時社員の避難の状況、企業の防災の取組を知る。
- (4) 宮城県多賀城高等学校との交流学习
まち歩き、津波避難ワークショップを体験したことにより、自分事として災害を考える。
- (5) 東松島市震災学習
地域との連携や被災体験をアーカイブで振り返る取組を知る。



被災地訪問 アンケートより（抜粋）

被災地訪問を通じて学んだことや、今後実行しようと思っていること。

- ・油断しないことが一番大切だと感じました。多賀城高校で学んだシミュレーションも思い出しながら避難したいと思います。津波について、宮城で学んだことを家族や友達に伝え、学んだことをこれから活かしていきたいです。
- ・8年たった今でも震災の影におびえている人や、そこから立ち上がって一歩前に進もうとしている人もいたことを知りました。私達も現状にとどまろうとせず南海トラフに備え、日々自分のできることを積み重ねていきたいです。
- ・身近な友人達にこの体験を知ってもらうため、全校生徒の前で発表し、津波の恐ろしさを知ってもらいたいです。また、昔高知であった大地震について調べてみたいです。
- ・初めて被災地を訪問してみて、映像や写真と違い、直接自分の目で見ることは想像の何十倍、何百倍もの衝撃でしたが、現地を訪問できて良かったと思いました。
- ・私は3年生なので来年以降、大学生、社会人になっても、自分の足で被災地を訪れ、今回被災地訪問で学んだことを友人や家族に伝え、意識を変えるために尽力したいと思います。

「世界津波の日」2019高校生サミット in 北海道

“記憶を未来へ、備えを明日へ”
～北の大地からイランカラプテ。自然災害の脅威と対策を学ぶ～

- 令和元年9月10日（火）・11日（水）
- 北海道札幌市北海道立総合体育センター「北海きたえーる」

- 参加者520名
国内参加者 71校：260名
（高知県：高校生11名 引率教員5名）
海外参加者 43か国：260名

- 分科会
 - テーマ1
知識を得る～過去の教訓の伝承～
 - テーマ2
意識を高める～災害への備えと迅速な避難～
（宿毛高等学校・大方高等学校・土佐塾高等学校・明德義塾高等学校）
 - テーマ3
復興に向け行動する～社会貢献、支援者の視点～
（高知南高等学校）



アンケートより（抜粋）

- ・自分の意見を伝える際や、相手の意見を聞き取る際に、英語の力がもっと必要と感じました。海外の方は、自分の考えを積極的に伝えたり、質問したり、コミュニケーション能力が高く、印象深かったです。交流会では、自分達と異なる視点の防災学習の取組に触れ、そこから自分たちにも役に立つことはないかと考えることができました。避難所生活についてシミュレーションを行い、継続して防災学習に取り組んでいきたいです。
- ・海外の人はとてもコミュニケーション能力が高く、見習いたいと思いました。分科会では、それぞれの国で取り組んでいることを発表し合いました。意外にも同じような取組をしていて、びっくりしました。学んだことを学校のみんなや先生方に伝えて、今の取組をさらに発展させたいです。
- ・自分たちが発見できなかったことを教えてもらうことができました。他校がやっていたことを見習い、実践したいです。何より、他県・他国の生徒と話せたこと、友達になれたことは私の人生にとってかけがえのない財産となりました。
- ・日本だけでなく世界の高校生と交流できる素晴らしい機会をいただけたことに感謝しています。サミットで得た経験を活かし、実行に移していこうと思います。また防災の観点、国際交流の視点からも、新たな気づきがあったので、学校の生徒全員と共有していきたいです。

令和元年度

高知県高校生津波サミット

助かる人、助ける人になるために
～今、私たちにできること～



たいさくくん



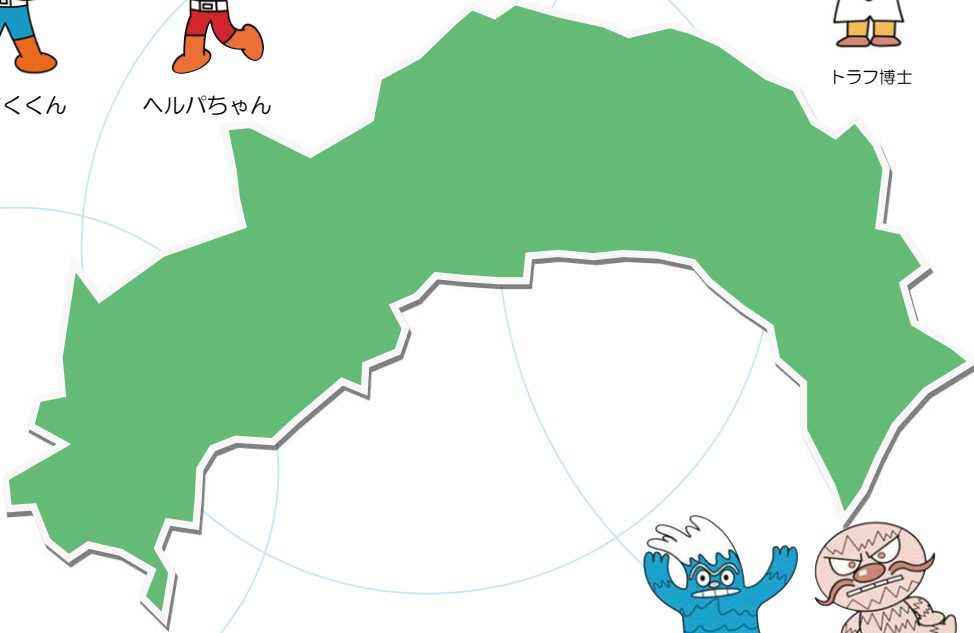
ヘルパちゃん



トラフ博士



ゆうどうくん



つなみまん



じしんまん

高知県防災キャラクター

©やなせたかし

令和元年10月27日(日)

令和元年度「高知県高校生津波サミット」開催要項

私たちから未来に紡ぐ ～高校生から広げる防災～

- 趣 旨
平成28年11月、本県の黒潮町で日本を含む世界30カ国の99校、361名の高校生が一堂に会し、『世界津波の日』高校生サミットin黒潮」が開催され、若き高校生たちが防災リーダーとしてそれぞれの国や地域で活動していく決意を表明した「黒潮宣言」が採択されました。その黒潮宣言に基づき、今後、高知県の未来を担っていく高校生が防災リーダーとして成長し、活躍することを目的に開催します。
- 主 催 高知県教育委員会
- 日 時 令和元年10月27日（日） 10：00～16：30
- 参加者 高知県内の高校生及び教員、学校教育関係者、防災関連機関担当者 等
- 日程及び内容

午前の部		高知県立ふくし交流プラザ
9：30	受付開始	
10：00	開会	
	移動	
10：25	グループ協議 テーマ「助かる人、助ける人になるために～今、私たちができること～」	
12：00	昼食・移動	
午後の部		高知県ふくし交流プラザ 2階多目的ホール
12：30	受付開始	
13：10	講演「東日本大震災の教訓 ～防災意識を高めるためには～」 国土交通省 東北地方整備局 秋田港湾事務所 岩手県 釜石東中学校 卒業生 沼崎 健 氏	
14：10	休憩	
14：25	全体会開会 報告 ① 宮城県への被災地訪問に参加して ② 『世界津波の日』2019 高校生サミット in 北海道」に参加して ③ 実践校からの活動紹介 全体協議 ① 各グループからの報告 ② 実践校からの決意表明「今後に向けて取り組むこと」	
16：25	閉会	

令和元年度「高知県高校生津波サミット」参加校一覧

【実践校：16校】

- | | |
|-------------|--------------|
| 1 室戸高等学校 | 9 宿毛工業高等学校 |
| 2 高知東工業高等学校 | 10 宿毛高等学校 |
| 3 岡豊高等学校 | 11 清水高等学校 |
| 4 高知南高等学校 | 12 高知商業高等学校 |
| 5 高知丸の内高等学校 | 13 高知高等学校 |
| 6 大方高等学校 | 14 明德義塾高等学校 |
| 7 幡多農業高等学校 | 15 土佐塾高等学校 |
| 8 中村高等学校 | 16 太平洋学園高等学校 |

【参加校：37校】

- | | |
|------------------|-----------------|
| 1 中芸高等学校 | 19 須崎総合高等学校 |
| 2 安芸高等学校 | 20 佐川高等学校 |
| 3 安芸桜ヶ丘高等学校 | 21 窪川高等学校 |
| 4 城山高等学校 | 22 檮原高等学校 |
| 5 山田高等学校 | 23 四万十高等学校 |
| 6 嶺北高等学校 | 24 中村高等学校西土佐分校 |
| 7 高知農業高等学校 | 25 山田特別支援学校 |
| 8 高知東高等学校 | 26 山田特別支援学校田野分校 |
| 9 高知工業高等学校 | 27 高知江の口特別支援学校 |
| 10 高知追手前高等学校 | 28 同 医大附属病院分校 |
| 11 高知追手前高等学校吾北分校 | 29 盲学校 |
| 12 高知小津高等学校 | 30 高知ろう学校 |
| 13 高知北高等学校 | 31 高知若草特別支援学校 |
| 14 高知西高等学校 | 32 同 土佐希望の家分校 |
| 15 伊野商業高等学校 | 33 同 国立高知病院分校 |
| 16 春野高等学校 | 34 同 子鹿園分校 |
| 17 高岡高等学校 | 35 日高特別支援学校 |
| 18 高知海洋高等学校 | 36 同 高知みかづき分校 |
| | 37 中村特別支援学校 |

【県外参加校：2校】

- 1 宮崎県立門川高等学校
- 2 愛媛県立松山工業高等学校



主催者挨拶



尾崎 正直
高知県知事

平成 28 年 11 月に、「『世界津波の日』高校生サミット」が高知県の黒潮町で開催されました。世界から約 30 か国、多くの国々から高校生の皆さんが参加し、津波対策を学び、「黒潮宣言」が出されました。私たちは今後も、防災について学び続け、そして“多くの命を守るんだ”そのような決意が示されました。この宣言に基づいて、その翌年の平成 29 年から高知県として「高知県高校生津波サミット」がスタートしています。この「高知県高校生津波サミット」は、大きく 2 つの点において、大変有意義なことだと私は思います。

1 点目は、皆さん一人一人、そして県全体としての防災力の向上という点です。災害について、事前に様々なことを備えていくということが極めて重要です。私は、「想定外をも想定する」ということを一つの合言葉として、様々な災害対策を進めてきました。想定することにも備え、また、その想定を超えるようなことが起こるときにも備える。自然の脅威というものはそういうものだと思います。

防災について学ぶことによって、「いざという時に身を守る」、そのための事前の備えにつながっていくものだと思います。

事前に準備をしていたとしても、その場その場において、最善の行動がとれる状況をつくっておかなければなりません。そのためにも、自分の命、家族の命、周りの人たちの命を守るため、普段から防災のことについて考えを巡らせておくということが大事だと思っています。いろんな方々の事例を学び、この津波サミットでの取組を通して、いざというときの家族や周りの人たちの命を守れる人となっていただきたいと心から願っています。

そして、2 点目は、防災に限らず、この高知県高校生津波サミットで取り組んでいることは皆さんの将来にとって、有意義なことだと思っています。

多くの仕事は決して一人ではできません。仲間と一緒に調べ、プランを作り、そして実行して、また、多くの方々と実行した結果について議論をします。そしてこれがまた新たな企画へとつながっていきます。そういうことの繰り返しとなっていきます。

防災を一つのテーマとして、高校生の皆さんは、これから大学生、就職へと、それぞれが新しい道に進んでいきます。その高校時代において、本当に役に立つ勉強をしているのだと思っています。

ぜひ、この高知県高校生津波サミットの機会でご得た様々な体験を、今後これからの皆さんの将来において、生かしていただきたいと思っています。

本日の開催について、皆さん大変準備をされたことと思います。ぜひ将来の防災力を育み、そして大人になった時のための備えとして、今日の学びが有意義なものとなり役に立っていくことを本当に心から願っております。

本日は、皆さまが頑張られたことに敬意を表させていただき、あわせまして、関係の皆様方に大変お世話になりましたことを、心から感謝を申し上げます。

来賓挨拶



桑名 龍吾
高知県議会議長

(挨拶概要)

議会を代表いたしまして、一言ご挨拶を申し上げます。

まずは、令和元年度の「高知県高校生津波サミット」が、このように盛大に開催されますことを心よりお喜びを申し上げます。また、皆さま方のこれからのご活躍にも期待を申し上げます。

私も平成 28 年の黒潮町の大会に、知事とともに参加をさせていただきました。日本をはじめ世界 30 か国、高校の数は 99 校、約 360 名の方が一堂に集まりました。初めて会う人たちが、何の無駄もなく一つの方向性を見出し、「黒潮宣言」を作り上げた姿、これは本当に素晴らしいと思いました。

今日の分科会でもそうですが、「津波」という共通の議論、話題もあるかと思えます。その議論の先にあるのは、「命」だと思います。ですから、国が違えども、習慣が違えども、言葉が違えども、また男女や育ってきた環境が違えども、命という価値はどこも一緒なんだ、そしてまたその重い尊い命をどうやって守るのかということは、世界各国共通のことではないかと思えます。

午前中の分科会では、おそらく初めて会う他校の生徒さんとも、すぐに打ち解けたことと思います。そして、命をどのように守っていくのかということについては、スムーズな議論ができたことだと思います。

今日これから後の発表を聞かせていただきますけれども、積極的な提案が聞けるものと期待をしています。

失ってよい命など一つもありません。軽い命もございません。命はどこでも誰でも重いものであり、尊いものです。今後、自然災害が起こる中で、どうやってこの一つの命を守っていくのか、今日をきっかけに議論を深めていただき、その重さを尊さを感じていただければと思っています。

本日のご盛会、誠におめでとうございます。簡単ではございますが、私からのご挨拶に代えさせていただきます。ありがとうございました。

講演

東日本大震災の教訓

～防災意識を高めるためには～

国土交通省
東北地方整備局秋田港湾事務所 沼崎 健
(釜石東中学校卒業生)



(講演概要)

釜石東中学校、鵜住居小学校は海に近く、川沿いにありました。地震発生時は放課後で、私も学校にいました。経験したことのない大きな揺れで、津波が絶対来ると確信し、急いで避難行動に移りました。この時、鵜住居小学校の児童たちは、校舎の3階に避難していたようですが、私たち中学生が避難する様子を見て、外へ出たそうです。私たちは一緒に避難しました。

はじめに避難した場所は学校から約5mほど高い場所でした。しかし、地域の方が崩れた裏山を見て「今まで崩れたことはない、とんでもないことが起こる」と先生に話し、さらに上の広場に避難しました。ところが、後ろを逃げていた人は広場よりもさらに上へと逃げていました。疑問に思って海を見ると、黒い壁のような津波が迫っていて、私もすぐに上へと逃げました。この時、避難した場所に避難者全員がいたわけではありませんが、自分の判断で山へ登ったり、保育園児が乗ったリアカーを引いて高台へ向かったりして、避難していました。その後、私たちは完成したばかりの三陸縦貫道を使って、内陸の体育館へ避難することができました。

日頃の訓練では、鵜住居地区の避難先は2階建ての防災センターという施設でした。そのため多くの方が避難していました。しかし、津波は2階まで到達しました。犠牲者は、160人以上と言われています。生存できたのは、屋上へ逃げた数人と2階フロアで運良く助かったわずかな人だけでした。2階で助かった人はカーテンに必死にしがみつき、波と天井のわずかな隙間に顔を出して呼吸していたそうです。私の祖母はこちらに避難し、残念ながら亡くなってしまいました。

ある小学生は、「家の2階ぐらいに避難すれば大丈夫」というおばあちゃんを「津波が来るから逃げよう、津波が来たら危ないんだ」と必死に説得して、高台まで避難し、無事助かったそうです。また、ある小学生は、足の不自由な友達を、友達同士協力し、おんぶしながら懸命に高台まで避難したそうです。釜石小学校の子どもたちは、学んできた防災学習を基にして、自ら判断し、助かることができ、釜石小学校の児童の犠牲者は0人でした。

釜石東中学校では、私が入学する前から、地域から学ぶ津波の歴史学習や、「てんでんこ」の伝承を学んでいました。私の在学中は、釜石東防災プログラムという防災教育が行われていました。具体的には、学年・教科ごとに防災学習を盛り込んだ学習や、小中合同避難訓練、防災オリエンテーション、防災ボランティアストなどの全体学習といった「EAST-レスキュー」が行われていました。防災ボランティアストは、学年を縦割りのグループに分け、安否札やチラシ配り、防災マップ制作を行う活動です。他にも防火訓練や救急搬送、水上救助、応急処置の学習もあり、学校全体で防災意識を高めていました。この防災教育は、自分の命を自分で守ることができるような生徒の育成というねらいがありました。

例えば、3ヶ年を使い、地域に安否札を1,000枚配るといふ大作戦を行いました。自主防災組織や町内会、民生委員の方々と一緒に、一軒一軒、地域の方を訪ねて、安否札を配りました。安否札があったから家族の安否確認時間が短く済み、命を守ることにつながったという話も聞き、自分たちの活動には意味があったと思いました。

生徒を隊員とみなした「EAST-レスキュー」隊員という制度がありました。レベル5級から、年次ごとに級が上がり、2級や1級は、ボランティア活動や地域の美化活動などに参加しポイントを獲得したら昇格するというものです。1級を目指して、いろいろな活動に参加し、楽しみながら学習できる良い制度だったと思います。

他にも、“地震の体験学習”や、普通に走って逃げる人、荷物を持って走る人、など様々な状況を想定し、津波と同じ時速36kmの車から逃げるといった、“津波の速さを知る体験学習”も行われました。ある同級生はこの体験学習があったから、自分で判断し、荷物を持たずに逃げたそうです。また、調査学習では津波の記念館などの史跡の調査や、チリ津波等の体験談の取材、郷土資料館で、これまでの津波の様子と被害の様子の取材などを行いました。最後は発表の場として「てんでんこ」という題名のビデオを自主制作しました。てんでんこレンジャーという5色のレンジャーが、地域の子どもたちに“津波の教え”を教えるといったビデオです。自分たちの後輩もレンジャーを引き継いでくれています。

命を守るために持つべき防災意識は、“備えること・行動すること・伝えること”です。

“備えること”としては、災害・防災を学びましょう。自主的に率先して学んでもいいと思います。そして、事前に家族で地震が起こったときの動きを話し合い、備蓄を家庭や地域で進めましょう。避難訓練には必ず参加してください。訓練せずして本番では全体行動なんてできません。訓練を行っていたから、するべき行動が分かっていました。避難訓練は地域の人たちの顔合わせの場にもなります、ぜひとも参加してください。

次に“行動すること”としては、率先避難者となってください。地震が起きたら、想定にとらわれず、最善を尽くし逃げましょう。その時は「津波が来たぞ、高台に逃げるぞ」と声かけをしながら逃げてください。そして、避難所の運営は人任せにせず、協力して行いましょう。避難所にいる方々は、決してお客様ではありません。また、最近、災害が起こるたびによく耳にするのが、デマの拡散です。入手した情報は正しいものかを判断してから、その情報を伝達してください。正確な情報を共有することが、避難した時の生活状況の改善や、助かる命につながります。

最後に“伝えること”です。学習したことを学んだだけで終わらせないように地域に発信しましょう。ぜひ学校行事や文化祭などで防災教育の結果を発表したり、サミットや、シンポジウムなどへ積極的に参加をしたりしてほしいと思います。そして、伝承や教訓をしっかりと後世へ語り継いでいきましょう。地域に伝わる災害の伝承・教訓はありませんか。自分が住んでいる地域だけではなく、全国ではどういった教訓があるのでしょうか。大人になって自分が生活することになった土地の災害の話や、避難所の確認などを行うようにしましょう。そして、教えられた伝承や教訓をしっかりと後世へ伝えていきましょう。「いのちをつなぐ未来館」、「東日本大震災津波伝承館いわて TSUNAMI メモリアル」という津波記念館があります。私も訪れたことがあるのですが、大変勉強になる施設だと思います。機会がありましたら、是非訪れていただきたいです。

最後に一つだけ震災を経験して伝えたいことがあります。皆さんにはぜひとも日頃から感謝の気持ちを伝えるようにしていただきたい。震災の後、私の一番心残りなことは、亡くなった祖母に対して、感謝の気持ち伝えることができていなかったことです。皆さんにはそういった後悔をしてほしくないの、ふと思ったときに親や家族だけではなく友人にも「いつもありがとう」と伝えるようにして欲しいと思います。

被災地訪問(宮城県) 報告

仙台市立 荒浜小学校 見学	宮城県 関上地区見学	被災をした 企業の方の 講話	多賀城高校生 との まち歩き	多賀城高校生 との 防災ワークショップ	東松島市立 図書館にて 震災学習
1 日目		2 日目		3 日目	

中村高等学校

安澤 慶一、畠中 天、森 心南、酒井 元気



1. 瓦礫で破壊されたフェンス(旧荒浜小学校)
2. 防災ワークショップ 3. 波高標識
4. 発表の様子

荒浜小学校では、当時の状況を教えてもらいながら見学をしました。この地区では「貞山掘りより手前に津波は来ない」と言い伝えられており、多くの方が犠牲となりました。その約60%が高齢者でした。この場所は安全、という昔からの言い伝えを過信してはいけないと現地の方は何回も話されていました。高知県は東日本大震災以上の被害が予想されています。正しい知識を広める必要があると思いました。

多賀城高校との交流学习では、避難方法のシミュレーションの防災ワークショップを行いました。スムーズな避難のためにも、安全に避難するための具体的な方法を考えることが大事だと感じました。また多賀城高校の生徒が主体となり行った「津波の高さを示した標識」の設置は、高校生が頑張っているからと周りの方の協力もあって、完成したそうです。実際に震災を体験している高校生に震災に関するアドバイスをもらえたことは本当に貴重でした。

【取り組むべきと思ったこと】

1. 安全を過信しないことを伝えること
2. 災害図上シミュレーションマップを用いて、具体的な避難状況を想定した取組を行うこと

太平洋学園高等学校

小松 夢叶



1. 関上地区にある
記念碑
2. 発表の様子
3. 復興の願いの寄
せ書き
(旧荒浜小学校)

宮城県関上地区の、特に高齢の方は、ここには津波が来ないと考えていたため、多くの方が逃げ遅れて犠牲となりました。周りの意見を鵜呑みにせず自分の意思で避難することが、大切だと思いました。案内してくれた方は「他人の命ではなく、まずは自分の命が大切」と消防学校で学んだそうです。家族を守るためにも、絶対に自分が死んだり、怪我をしたりしないよう、備えておかなければならないと思いました。

被災を経験した企業の方によると、商品を使う方々のことを考え、復旧に取り組んだそうです。他にも、他社にシェアを奪われるのではないかと不安だったという話をしてくれました。

防災ワークショップでは、避難の意思決定を体験しました。「避難時に怪我をした子に会ったらどうする？」と多賀城高校の生徒に聞かれたときは、避難の難しさを感じました。また、図書館の方の講話では、仮設住宅に図書館を設置した話や、市が作成した被災体験をした方のアーカイブを見せてもらいました。今までの資料よりも生々しく、津波の脅威が残されていました。

【学んだことのまとめ】

1. どんな状況でも安全に避難することの大切さ
2. 避難の際、判断することの難しさ
3. 地域の人たちに伝える必要性

「世界津波の日」2019高校生サミットin北海道 報告

高知南高等学校 筒井 彩賀

世界各国の高校生と津波・地震の課題や対策をシェアし、「過去の経験のマニュアルを作り、伝承することが大切。」という結論が出ました。

イタリアでは建物の倒壊問題、パプアニューギニアでは政府の支援不足など、各国ならではの課題を知りました。地球全体に様々な課題がある中で、その課題をどのように対処するのが一番のカギになるのではないのでしょうか。

レセプションパーティーでは、参加者に配られたアイヌの模様の入った青い半被を着て、立食パーティーを楽しみました。

ステージでは、なぎなたやダンスが披露され、楽しみながら参加者と交流を深めました。他にも外国の方と桜の木の植樹を行いました。コミュニケーションを取りながら協力して植えることができました。滅多にできない経験ができ、良い思い出となりました。

震災とは、その瞬間だけでなくその後の暮らしにも大きな影響を与えるものなので、震災後の対策も必要です。防災活動は私たちの世代だけでなく、これから生きる世代にも続いて欲しいと思います。



土佐塾高等学校 西山 侑吾

全体テーマは、「記憶を未来へ、備えを明日へ〜北の大地からイランカラッテ。自然災害の脅威と対応を学ぶ〜」でした。

※イランカラッテ=アイヌ語でこんにちは

分科会では3つのテーマ分かれて発表を行いました。1 知識を得る〜過去の伝承 2 意識を高める 3 復興に向けて貢献するのうち、私たちはテーマ2について話し合いました。英語で発表を行い、各学校でよかったところなどを付箋に書いて共有しました。他にもディスカッションを行い、総会の発表準備や各学校で気になったところを発表しました。

2日目は記念植樹や記念碑の除幕式を行いました。その後の総会では、各グループの代表生徒2名がプレゼンを発表。

「イランカラッテ宣言」が宣言され、地元高校生の書道パフォーマンスが披露されました。また、今回参加した生徒全員が防災大使に任命されました。イランカラッテ宣言の重要な内容として「自然災害への関心をより一層高め、自然災害から命を守るためにSNSの活用をするべきだ」ということがあげられました。閉会式では生徒全員が携帯のライトをかがげ、感動的な雰囲気になりました。



防災活動 報告

大方高等学校

【今年度の実施内容・詳細】

- ・オリジナル HUG 活用した避難所運営訓練
地域の実情に合わせて HUG を昨年度制作
福祉避難所や蕨岡中学校への出前授業の他、大方高校全生徒に実施
- ・スマホアプリ「逃げトレ」を用いた避難の検証
高齢者の体験ができるメガネの使用、車椅子での移動等、カラダの不自由な方でも逃げ切ることが可能な避難経路かを検証
- ・地区防災会議で防災の提案や検証の報告
家具固定や持ち出し袋の用意の提案、避難の検証結果を報告
- ・黒潮町総合防災訓練に全校で参加
- ・保、小、中の合同避難訓練で仲間づくりゲームや防災クイズの実施

【これからの活動について】

- まだ出向いていない地域の方と「逃げトレ」を行う。
- 近隣の小学生と一緒に遊べる防災かるたの作成と出前授業の実施



明德義塾高等学校

【今年度の実施内容・詳細】

- ・避難経路地図の改良
- ・防災パンフレットや震災対策カード、防災新聞の制作
イラストや写真、各言語への翻訳、やさしい日本語を使用する等、留学生にもわかりやすい情報誌となるように制作
- ・防災単語帳の制作
「警報」=「お知らせ」等、やさしい日本語に置き換えた一覧表
- ・中高新1年生の留学生を対象とした防災教室の実施
・生徒を対象とした意識調査アンケートの実施

【これからの活動について】

- 避難後の生活の学習や、避難所の備蓄品の確認を実施
- 正しい情報を得るため、SNS や伝言ツールの使用方法を学習
- 留学生との交流の増やし、各キャンパスの学生との防災教室を実施
- 幼稚園保育園等、地域との関わりを増やす。



高知東工業高等学校

【今年度の実施内容・詳細】

- ・AED の周知活動
アンケートを行うと AED の位置を全て知っている人は全体の 4% と判明
意識改善のため、AED や担架、備蓄品の位置をまとめたものを教室に掲示
気にかける生徒も増え、意識の変化があらわれた。
- ・防災に関するモノづくり (充電ポート制作)
炊き出し等から出る熱を、電力に変換し発電できる仕組み
※熱を電気に変換する性質を持つ「ペルチェ素子」を使用
※片面を冷やし片面を温めると電力が発生する「ゼーバック効果」を利用
但し、必要電力が維持できる時間は 2~3 分であったため改良が必要
物作りを通して、災害時に起きることなどについて学ぶことができた。

【これからの活動について】

- 制作した発電部分の改良。衛生面などにも配慮し、電力の安定を目指す。
- 発電した電力が、充電できる仕組み (充電ポート) への着手





グループ協議
 テーマ
 「助かる人、助ける人になるために 今、私たちができること」



Aグループ

実践校 高知県立高知東工業高等学校
高知県立宿毛高等学校

高知県立大方高等学校
高知商業高等学校

参加校 高知県立山田高等学校
高知県立窪川高等学校

高知県立高知西高等学校
高知県立高知北高等学校

グループ協議報告（概要）

実践校からは、東工業高校ならではのペルチエ素子を用いた防災グッズづくりがあった。大方高校ではオリジナル HUG の作成。そして宿毛高校では宿毛市防災アプリの活用といった実践報告があった。

- ・助かる人、助ける人になるために自分たちができることとして、一人一人が主体的に行動する。
- ・通学路の避難経路を徹底する。
- ・地震津波以外の大雨や台風がきた時のため、事前マップ作成をする。
- ・情報を早く収集し、活用する。
- ・地域と連携し、早めに行動する。

まだまだ課題や取組に力を入れることが大切だと感じた。今日話し合った話を校内に広め、さらに防災意識を高めて一人でも多くの命を助けたい。

学校名 高知県立高知東工業高等学校

取組テーマ 防災に関する啓発活動 ペルチェ素子を用いた防災グッズづくり

学校や地域の現状・課題

学校や学校周辺への津波到達の想定はされていないので、防災教育を受けたいとの声もあるが、それほど行えていない。いざ大きな災害が発生した際にどのように行動すればよいか分からない生徒がほとんどである。災害（特に地震）は、時間、場所に関係なく発生するため、その時その場の状況から考え、行動することが重要である。そのため、過去の災害から学び、一人一人の知識を深めることが必要だと考える。校内で防災に関するものづくりを通して、被災時の状況を想定して知識を得たり、校外での防災に関する講演や体験等で知識を得る。ものづくりや講演、体験等から学んだ知識や感想を多くの人に伝える活動を行いたい。

アクションプラン

- 31年 4月 防災に関する業務を行うホーム役員(学校安全委員)の設置
- 元年 5月 防災アンケート実施
 - 課題研究 ペルチェ素子を用いた発電の研究開始
- 6月 避難訓練
 - 高知県高校生津波サミット学習会参加
 - 避難所生活についての講演
- 7月 A E D、備蓄品倉庫、担架の配置図、備蓄品リストの作成
 - 第1回開かれた学校づくり推進委員会 防災活動について報告
 - 高知県高校生津波サミット被災地訪問参加
- 9月 避難訓練 訓練内容の企画
 - A E D、備蓄品倉庫、担架の配置図、備蓄品リストを各ホーム教室に掲示
 - 災害用伝言ダイヤル(171)の体験利用を各ホームで実施
- 10月 高知県高校生津波サミット

成果と課題・今後の展望

〔成果〕

- ① 学校安全委員を設置したことによって活動の輪が広まった。
- ② A E Dの設置場所の認知度を高められた。
- ③ 防災グッズづくりを通して被災後の生活について考えることができた。

〔課題〕

- ① 自然災害に備えていない人が、生徒・教員で半数以上いる。
- ② 現実味や緊張感の低い避難訓練がマンネリ化している。
- ③ 防災教育の意識が低い。
- ④ 各々が被災時、被災後にどのような行動をとればよいのか、理解しているか、分からない。
- ⑤ 生徒が確認できる防災マニュアルがない。
- ⑥ A E Dの使用方法を知らない生徒が多い。
- ⑦ 地域との交流が少なく、連携が希薄。

〔今後の展望〕

- ① S Hで実施している放送内容(南海トラフ一口メモ)の内容を新しくするよう、体験等で身につけた知識から原稿を作成。
- ② 実際に被災した方に講演をしていただく。
- ③ (啓発の先駆けとして)希望者のみを集めた地域合同の防災訓練やA E D等応急手当の講習会を行う。
- ④ 地域に寄り添った活動を行う。
- ⑤ ペルチェ素子による発電の効率を高める。

学校名 高知県立大方高等学校

取組テーマ 地域とともに考え行動する

学校や地域の現状・課題

大方高等学校がある高知県黒潮町は、南海トラフ地震での津波高が、最大 34メートルと予想されている。南海トラフ地震が起こった際、本校は地域の避難所に指定されており、平日の昼間に被災した際には、高校生も本校での避難所生活を強いられることとなる。昨年度は生徒の提案から、避難所生活をともにすることとなる黒潮町の住民データをもとに『オリジナル HUG』を作成した。しかし、実践を通して交流できたのは一部の地域の方にとどまったため、本年度はより多くの地域の方との交流を目指している。

アクションプラン

● 避難所運営マニュアルの提案

これまでの実践から見てきた本校の避難所としての課題と、黒潮町が作成した避難所運営マニュアルとを比較検討し、マニュアルそのものの見直しや備蓄品などの要望について、黒潮町役場に提案をした。

● 保小中高合同避難訓練での交流会

毎年行っている避難訓練後に、本年度初めて交流会を実施した。高校生が主体となり、防災クイズなどを通して子ども同士の交流ができた。

● 黒潮町総合避難訓練への参加

黒潮町総合避難訓練に初めて参加した。多くの町民の参加を促すため、事前に授業内でポスターを作成し、参加を呼び掛けた。当日、本校の生徒が通学中に発災したことを想定し、各々の現在地から大方高校までの避難訓練を行った。その後、1年生から3年生までの縦割りで『オリジナル HUG』を実践した。

● 福祉避難所にて『オリジナル HUG』の実践

新たに福祉避難所に認定された近隣の施設の職員の方と HUG 訓練をし、共に福祉避難所運営について考えた。

● 地域住民の方との逃げトレ実践

道路改良にともない、不安の声があった入野本村地区から大方高校までの避難路を、地域住民の方とともに検証した。高齢者疑似体験装具を用いて避難訓練を行い、津波到達時間と避難に必要な時間との関係を調査し、住民の方に報告した。視覚障がい者や聴覚障がい者の方とは個別に訓練を実践した。

● 「高知防災クイズチャンピオン」にて出題問題を作成

小学生対象のクイズ大会にて出題問題を作成、黒潮町の防災について発表などを行った。

● 生徒防災委員会の活動

先生方に、災害への備えについてインタビューし、『防災だより』を発行した。全校生徒に配布し、備蓄品袋の持参を呼び掛けた。校内には常設の防災展示コーナーがあり、防災意識の向上だけでなく、学校内外への活動の紹介にも繋がっている。

● その他

炊き出し訓練の実施、シェイクアウト訓練(9月)

成果と課題・今後の展望

- 成果
 - ・ 近隣の保・小・中学校との交流会や、地域の方との防災活動の中で、いざというときに協力できる関係を築くことができた。
 - ・ 災害時のあらゆる場面を想定し、全ての人にとってより良い避難所運営について実践的に考え行動することで、命を守るための防災活動に繋げることができた。
- 課題
 - ・ 防災活動を継続して行うために、防災意識の更なる向上や知識を増やすための活動を、学校全体での取組として広げていく必要がある。
- 今後の展望
 - ・ 地域の小学生と一緒に遊べる防災カルタを作成し、出前授業を行う。
 - ・ 広がった地域との繋がりを生かし、まだ出向いていない地区の住民の方との交流を行う。
 - ・ 夜間避難訓練・避難所開設訓練の実施と、地区防災計画シンポジウムで活動報告を行い、より多くの地域の方が本校を頼ることができるきっかけをつくっていく。

学校名 高知県立宿毛高等学校

取組テーマ 意識を高める

学校や地域の現状・課題

- ・避難道について
定期的な避難訓練で、避難道の幅が狭く急な坂があるため高齢者などは避難が困難であることを知った。
- ・防災意識の向上
宿毛市外から通学する生徒も多く、住んでいる地域によって被害想定が違うこともあり、生徒一人一人の防災意識に差があることがアンケートから分かった。
- ・地域との連携
災害に強い学校や街づくりを行うために、学校と地域が一体となって防災に取り組むための組織が必要だと感じた。

アクションプラン

- ・避難道について
市役所の方との話し合いで、「旧遍路道」という道があることを知った。この旧遍路道を使用できないかと考えている。今後はこの旧遍路道を整備していきたい。
- ・防災意識の向上
多くの人が使用しているスマートフォンで何かできないかを考えた。宿毛市では近くの避難所や防災情報を確認できる「宿毛市防災アプリ」を開発している。この防災アプリを普及するために、地域のテレビ局と協力しCM撮影を行った。これから多くの人に見てもらい、アプリを活用してもらえるように機能改善と一緒に取り組んでいく。
- ・地域との連携
市役所、学校、地域、消防が一体となり、防災委員会を立ち上げた。消防との救急講習会や大学の先生を招いての防災講演会（保護者も参加可）を行った。来年度は学園祭があるため、内容を検討中。防災マップの作成も行っていく。

成果と課題・今後の展望

様々な活動を通して、一人一人の防災に対する知識不足や意識が低いことを感じた。9月に参加した世界津波サミットでは世界各国が防災に本気で取り組み、実践していることを知り大変驚いた。

様々な取組の中で、生徒一人一人が防災について考える姿が見られるようにもなった。今後は各教科（授業）で防災の取組も行い、自分たちが地域の防災リーダーとして成長できるように協力しながら活動していきたい。また、アクションプランを市役所の方々と話し合いながら実践していきたい。

学校名 高知商業高等学校

取組テーマ 防災知識を高めるための防災カルタの作成・実施

学校や地域の現状・課題

- ・学校全体の生徒が防災の意味や課題について知らない。
- ・そもそも、どんな対策しているのかわからない。
- ・高齢者の孤立化が高まり、地域連携が弱まっている。
- ・地域を含んでの避難訓練がない。

アクションプラン

学校全体の防災意識・防災知識の向上が大切であるとの考えから、防災学習のツールとして①防災クイズ②防災紙芝居③体験学習グッズなどを準備する必要がある。

そこで今回、私たち高校生が遊びの中で防災に関する重要なキーワードを自然に覚えられるように「防災かるた」を制作する。

成果と課題・今後の展望

高校生だけでなく、防災かるたは子供からお年寄りまで楽しめる。

防災かるたをゲーム形式で実施することで、親睦関係が深められ楽しく沢山の人が学びたいと意欲を示してくれると思う。

Bグループ

実践校 高知高等学校
高知県立室戸高等学校

明德義塾高等学校

参加校 高知県立安芸高等学校
高知県立嶺北高等学校

高知県立高知工業高等学校

グループ協議報告（概要）

実践校の取組の発表では、高知高等学校は幼・小・中・高合同の避難訓練など、地域と協力した防災を主体とする発表があった。また、明德義塾高校はやさしい日本語などを使った震災対策カードの作成、室戸高校は防災講演など、現状の課題を意識した防災の発表があった。

- ・各校の取組を自校で取り入れたい。
- ・助かる人→助ける人になるために知識を得る。
- ・防災意識の向上、各自の取組にしていきたい。
- ・地震や津波以外の災害から、非常持ち出し袋の準備、情報メディアの活用をする。
- ・早めに地域の人と一緒に避難することが大切である。

全体で活発的な話し合いができていたので、非常に有意義な時間だった。他の実践校もとても興味深い内容で、自校の防災活動にうまく取り入れていきたい。

学校名 高知高等学校

取組テーマ 校内や通学路における防災、地域との連携

学校や地域の現状・課題

- ・校内や通学路における防災対策が不十分である。
- ・地域との連携が不十分である。

アクションプラン

(1 学期)

- 6月 幼小中高合同の避難訓練を行った。
- 7月 避難所の人権問題について学習した。
- 8月 JRの五つの駅（高知駅・土佐一宮駅・入明駅・円行寺口駅・旭駅）からの避難経路を確認した。

(2 学期)

- 9月 旭東小学校区防災連合会の避難所運営訓練の様子をまとめた「旭東小学校区防災連合会だより」を作成した。
- 10月 生徒会メンバーで選定した非常持ち出し品を学園祭で販売した。
旭駅から本校までの避難経路を確認し、危険箇所をチェックした。
状況に応じた校内の避難経路を検討した。
図書室のガラスに飛散防止フィルムを貼った。

成果と課題・今後の展望

今年度は、多くの取組を行った。来年度もそれぞれの取組を継続しつつ、内容を深めて行きたい。

学校名 明德義塾高等学校

取組テーマ 世界に広げよう防災意識

学校や地域の現状・課題

- ・竜キャンパスは、海が近いため地震が起こると必ず津波に襲われる。
- ・全校生徒の3分の1以上は留学生で、防災知識や意識に差がある。

アクションプラン

- ・「震災対策カード」と防災パンフレット「架け橋」の制作と配布をする。
- ・「防災単語帳」現在制作中である。「架け橋」をより分かりやすい言葉で制作する。
- ・「防災新聞」発行する。2カ月に1度の発行を目標に発行する。
- ・「防災教室」開催する。中学校1年生と高校1年生の留学生を対象に毎年行う。
日本人の中学1年生も対象とする。
- ・「校内防災アンケート」を実施する。防災教室の後にアンケートをとり、意識調査をする。
- ・「三陽荘防災リーフレット」制作する。近隣のホテルと協力してリーフレットを制作する。

成果と課題・今後の展望

- ・避難後の生活を考えていく。避難場所の備蓄品や避難所の確認をする。
- ・情報の真偽を見分ける力をつける。
確かな情報源、明らかな偽情報を見分ける冷静な判断力を養う。
SNSや防災アプリ、伝言ツールの上手な活用を検討する。
- ・留学生と日本人の交流を増やす。
- ・「防災教室」の改善（より関心をもってもらうために）
本校生徒対象の防災教室も計画する。
- ・地域との連携をする。学校周辺の避難場所も確認しておく。

学校名 高知県立室戸高等学校

取組テーマ 学校、地域の防災意識向上のために

学校や地域の現状・課題

平成 28 年度より実施している防災アンケートで、一人で登下校中に被災したとき、安全な場所に避難できると回答した生徒は約 50%と例年大きな変化はなく、被災した時に自分で判断して行動できるか不安に思っている。回答する生徒が毎年変わるにも関わらず、割合に変化がないということが課題の一つである。

また、室戸高校は避難所に指定されており、避難所運営には室戸高校生の力も必要になると考えられる。避難所運営について考えるとともに、生徒や教員の防災意識を向上させ、地域の意識を向上させていく必要がある。

アクションプラン

昨年度に続き、生徒会委員として防災委員を設置する。

各ホームでリーダーシップをとって校内で防災についての活動を行う。

- ・ 避難訓練内容の見直し
- ・ 防災アンケートの実施、内容の精選
- ・ 防災啓発活動
- ・ 避難所運営体験

このような活動を行うことで、室戸高校生の防災意識を高め、家庭や地域の防災意識向上に繋げていきたい。

成果と課題・今後の展望

今年度、学校で行った避難訓練では、防災委員が肢体不自由者や視覚障害者として参加した。参加した生徒や介助役の生徒からは「何が怖いのか」、「どこを配慮してほしいのか」、「介助役のどんなサポートがよかったのか」、「介助役は何を気にかければよいのか」などの気付きがあり、新たな気付きを共有できた。しかし、一部でしか共有できていないため、全体で共有する必要がある。また、室戸高校は津波浸水エリアに入っていないが、津波が来ることを想定した訓練も必要だと考える。

Cグループ

実践校 高知県立宿毛工業高等学校

高知県立岡豊高等学校

参加校 高知県立高知追手前高等学校吾北分校

高知県立中芸高等学校

高知県立須崎総合高等学校

高知県立高知海洋高等学校

グループ協議報告（概要）

宿毛工業高校は課題研究でのウッドストーブ、段ボールベッドの実践報告があった。岡豊高校は「逃げトレ」というアプリを使って避難訓練をし、情報共有を行った。また、MY サバイブマップの育成を行うといった報告があった。

- ・助かる人、助ける人になるために自分たちができることとして、高齢者の方は避難訓練に参加しない人が多くいるが、そのため、私たち高校生や中学生が声をかけ一緒に避難訓練を行う。
- ・地震や津波以外の大雨、台風、土砂災害等から、備蓄品や避難経路の確認、ラジオ・インターネットなどで災害状況を確認、災害が発生する前にできるだけ早く周りのいる人たちと一緒に高い建物へ避難する。

今日の話し合いで、地震が発生する前に備蓄品や避難経路の確認をすることが避難時に役立つことや、お金があまりかからない物づくりをすることが大事だと思った。また、避難訓練を行う際には、怪我をした人や要配慮者を想定して、足におもりを付けたり、目隠しをする等工夫して、避難訓練を実施したい。

学校名 高知県立宿毛工業高等学校

取組テーマ 避難訓練のバージョンアップ・防災に関するものづくり

学校や地域の現状・課題

本校は防災活動として、年3回程度の避難訓練を行っているが、短時間で避難することに重点が置かれているので、地震発生時の対応や事前の準備などはあまり浸透していないように感じる。それらの知識をつけないといけない。

地域的には、近くに幡多けんみん病院があり、災害時には比較的対処しやすい場所であると思われるが、避難所としての在り方など、環境の整備を行う必要がある。

アクションプラン

津波サミットをはじめ、防災学習の機会に参加をしてきた。防災に関する知識を学校全体で共有することとして、学校自体の津波被害などは無いとされるが、生徒個人は沿岸地域に住んでいる者も多数いるため、地震発生時の行動を整理する必要がある。特に、地震発生後早くに津波が押し寄せてくる可能性のある場所に住む者に対して、避難の鉄則を遵守できるように周知を行う。

ものづくりについては、工業高校だからこそできる準備として、今年度、3年生の課題研究を行っている班に依頼し、防災に関するものづくりを行ってもらった。内容としてはウッドストーブ（現在も製作中）で、冬場の災害に備えて暖をとり、簡単な調理にも使えるものになる。今後の課題研究でも継続し、防災関連のものづくりを定着させることができればと思う。

成果と課題・今後の展望

まだ成果とは言えないが、防災に関する意識を低下しないようにすることが大切と感じた。ものづくりを継続することで、常に防災というものが、特別ではなく身近なものになるようになればよいと考える。

学校名 高知県立岡豊高等学校

取組テーマ 「過去にあったことから、今できることを考えよう！」

学校や地域の現状・課題

- ・本校は地域の避難所に指定されているが、食料や毛布等の備蓄数が教員と生徒の分しかなく、校外から避難する人たちの備蓄分がない。
- ・体育館が2階にあるが、1階からの2階に上がるスロープがない。災害時にエレベーターが停止することを想定すると、お年寄りや体の不自由な人が安全な場所に避難できない。

アクションプラン

- ・MY サバイブマップ作りを1年生から実施する。(登下校中の避難経路の意識及び避難場所の意識を高める。)
- ・「逃げトレ」というアプリを利用し、まずは岡豊高校周辺の地点から避難経路をチェックする。それを基にした避難訓練実施後、他校と情報共有を行う。
- ・本校での避難訓練実施時、高知大学の岡村眞教授の言葉を引用して発表する。(避難訓練を真剣に行い、全員の命を守るための防災意識の再構築をさせる)

成果と課題・今後の展望

【成果と課題】

- ・被災地訪問に参加したことで、かなり復興作業が進んでいるということを知ることができた。
- ・現地の高校生は、東日本大震災の経験を生かして、今後、被災した時のために様々な対策をとっていることを知ることができた。
- ・前回からやると言っていたMY サバイブマップを今回は作成するようにする。

【今後の展望】

- ・津波サミットでの被災地訪問の内容を全校に向けて発表する。
- ・備蓄品の数を増やすことができないため、地域の方に食料等の備蓄をするように呼びかけをする。
- ・高齢者、体の不自由な人の避難介護をする係を作る。

Dグループ

実践校 土佐塾高等学校

高知県立清水高等学校

高知県立高知丸の内高等学校

参加校 高知県立高知東高等学校

高知県立城山高等学校

高知県立佐川高等学校

高知県立高知小津高等学校

高知県立四万十高等学校

グループ協議報告（概要）

土佐塾高校では、備蓄品に対する取組があった。非常食のアレルギー対応などの実践報告があった。清水高校では、市と連携して建設した避難小屋や、雨水を生活用水にできるタンクの設置、他にも炊き出し訓練等を行っている実践報告があった。

- ・各学校で様々な取組を行っていることが分かった。
- ・城山高校の被災後のことを考えることも、新しい視点で大切だと思った。
- ・備蓄品でブランケットなどがあったが、寒さ対策にはなるが、暑さ対策ができていない等の課題もあった。
- ・高知丸の内高校では他の高校と比べて地域との交流が少ないため、これからも増やしていきたいという意見があった。

学校名 土佐塾高等学校

取組テーマ 本校生徒の防災意識向上のために何をすれば良いか？

学校や地域の現状・課題

近い将来必ず起こる南海地震の甚大な被害を受けるであろう高知県に住んでいる私たち土佐塾生の防災意識がかなり低いという課題がある。

アクションプラン

生徒全員に学校にある備蓄品とそれを保管している防災倉庫の場所を認識してもらうために、自主制作の動画を YouTube 等の動画投稿サイトもしくは、本校掲示板にアップロードし、生徒たちに見てもらう。

9月北海道で行われた「『世界津波の日』高校生サミット 2019」にて同じグループでディスカッションした和歌山県立日高高等学校さんが製作していた「防災カレンダー」の本校版を製作し、生徒・教員で有効に活用していくとともに、日頃からの防災意識向上に努めていく。

成果と課題・今後の展望

今後の展望として、今年度中に生徒主体の防災委員会（各クラスから 1～2 名程度）を設置して、ある程度機能してきたら、避難訓練や防災学習などでリーダーシップをとってもらいたい。また防災委員会内で非常食や備蓄品の選定等も行ってもらいたいと考えている。

学校名 高知県立清水高等学校

取組テーマ 地域と創る防災講演会

学校や地域の現状・課題

- ・ 地区の避難所の多くが山に決められているため、孤立する所が多くなる。
- ・ 昭和南海地震以降に埋め立てた土地が多いため、地震発生時に地盤沈下の恐れがある。
- ・ 海拔3～5mに位置する家屋が約半数ある。

アクションプラン

- ・ 前年度アクションプランから「山に避難することの危険性を知る」を重点目標とする。
- ・ 清水高校の防災委員が、土佐清水市の自主防災組織が主催する集会に参加し、防災知識についての発表を行う。また避難小屋の整備に関わる。
- ・ 土佐清水市の総合避難訓練に、防災委員が学校代表として参加する。
- ・ 高校の避難経路である山道の整備、草刈りなどを計画し、避難訓練に主体的に取り組む。高校生のみならず、市民全体の防災意識を高め、誰も被災しない土佐清水市を目指す。

成果と課題・今後の展望

- ・ 防災委員を中心とした活動を、学校全体に広げていく。
- ・ 他の地区の自主防災組織とも連携し、市全体に活動を広げる。
- ・ 避難経路の整備を、定期的な計画に組み込む。

学校名 高知県立高知丸の内高等学校

取組テーマ 周囲をまきこむ！！

学校や地域の現状・課題

東日本大震災から 8 年が過ぎ、あの惨事が風化しつつある。高知丸の内高校でも防災意識の低下が顕著に現れている。事前の準備（訓練や備蓄）が不十分である。

アクションプラン

- 防災新聞の作成（高知県の震災の歴史やその被害を調べる。）
- 被災地訪問で学んだことを全校生徒に周知する。
- 避難訓練において生徒が高い意識で臨めるようなアプローチを考える。

成果と課題・今後の展望

- 今回で 3 回目となる防災新聞を作成し、地域に配布したい。保育園等で防災教室等ができればよい。消防署で防災の最前線にいる人たちに話を聞きたい。

Eグループ

実践校 高知県立中村高等学校
高知県立高知南高等学校

太平洋学園高等学校
高知県立幡多農業高等学校

参加校 高知県立橋原高等学校
高知県立安芸桜ヶ丘高等学校

高知県立春野高等学校

グループ協議報告（概要）

実践校は各校特色のある発表を聞くことができた。文化祭で非常食をふるまうことで、非常食の関心を高めてもらう取組があった。防災植物を使ってレシピを開発するなど、実際に被災した時のことを考えたものが多く、今後の活動に役立つ実践報告があった。

- ・地震で被災した時には、ラジオなどを活用して情報収集したり、避難所を事前に活用することなど、今まで考えていたことを改めて検討し直したり、知らなかったことを知る機会になった。
- ・地震以外の自然災害に関して、例えば今年の台風でも、避難指示が出ても避難をしなかった方などがいたが、避難指示が出た時は必ず逃げる、そういったことを改めて確認することが必要ではないかという意見もあった。
- ・非常食や非常用持ち出し袋といった持ち出す物に加えて、モバイルバッテリーといった最近では必要不可欠な充電機器なども、事前に準備しておく必要がある。

これからさらに知識を深め、防災意識の向上をしていくためにも、グループ全体で様々な意見を交流できて良かった。

学校名 高知県立中村高等学校

取組テーマ 一部の生徒に限らず、生徒全体が避難所開設をできるような仕組みを創る

学校や地域の現状・課題

生徒の中にはまだ防災意識が低い人も多く、実際に災害が起きたとしても受け身的な行動しか取れない恐れがある。

アクションプラン

- 10月 28～31日のいずれか一日 区長への説明会
- 11月 9日 避難所開設訓練の最終打ち合わせ、準備
10日 四万十市内にて避難所開設訓練を行う
N D S D (中村高校自主防災組織)と四万十市の中村地区避難所検討委員会とで作成した、避難所運営マニュアルの最新版の試用。
～ 避難所開設訓練を通して、マニュアルの改善を行う。
- 1月 地域の小中学生が参加する防災イベントにて、活動報告や防災に関するレクリエーションの実施。

成果と課題・今後の展望

成果：市役所の方との連携、防災活動に興味を持ってくれる人が増えた。

今後の展望としては、黒潮宣言にある、3番目の最初の文章「学び得た知識や技術、若者らしい斬新な発想をもって、あらゆる人の防災に役立つものや仕組みを創造します。」という部分に重きをおいて活動していこうと考えている。

学校名 太平洋学園高等学校

取組テーマ 地域性を活かした防災の取組

学校や地域の現状・課題

- ①本校の備蓄が不十分である。
(ヘルメットを全生徒分配置、備蓄の置き場所の検討開始)
- ②生徒個人に向けた啓発等しておらず、現状も把握できていない。
(本校、親子研修会において高知大学の先生を講師に啓発を実施)
- ③避難場所での生活が長期化したときの対策が不十分である。
(①で検討中)
 - ・地域住民の高齢化と地域全体のコミュニケーションが不足している。
(1年を通して、自区民運動会や公民館活動に参加。また消防団とも連携が開始)
 - ・高いビルに囲まれている割に避難できるビルが少ない。
 - ・帰宅時、登下校中の備えを検討する。
(本校、親子研修会において全生徒に持ち運べる防災ポーチを配布)

アクションプラン

令和元年 8 月 30、31 日に防災キャンプを行った。これは、本校体育館にて行う宿泊研修である。本校は、東北以外にもこれまで熊本、西日本豪雨の被害にあった愛媛県宇和島市などの被災地でボランティア&ヒアリング調査を行っている。その際に聞き取った内容を基に、プログラムを作成する防災キャンプを行っている。東北の震災直後において生鮮食材が多く出回ったという話に対しては、ダンボールで作った自家製の燻製器で燻製を作成したり、避難所では土埃が酷かったという話を聞いた際は、パイプ椅子で高さを調整してベッドを作るなどした。このように聞き取りと体験を両輪にして活動を一つ一つ考えながら作っている。

また、愛宕商店街では 3 回のフィールドワークを行った。津波浸水想定が書かれた看板を確認したり、店主へ防災意識などを聞き取った。高齢化が進み跡継ぎがいなくなった商店街は、助けられる側の人たちであるかもしれないが、そこには人が集まり、情報が交換される点から言えば、防災上かなめになる可能性は十分あることが分かった。

今後予定している活動としては、以下のとおりである。

毎回の防災活動がどの程度効果があったのか、事後検証できる仕組みを作りつつある。これは、高知大学の大槻准教授（コミュニティ防災が専門）にご尽力をいただいている。今年度後半には、市内や市外含めた 3 地域で検証のためのワークショップ&ヒアリング活

動を行う予定である。内容としては、一般的な家具固定や非常用持ち出し袋の作成のためのワークショップだが、その終了後1ヶ月ほど経ってから、再度集まってもらい、どの程度の参加者が防災行動をとったのか調査票を用いたヒアリング調査で、一人一人から聞き取る予定である。本校の活動は、地域で活動するということだけで、一定の評価と本人やその周りの人の満足が得られがちである。だからこそ、自分自身で本当に防災力向上に役立っているのかという点で厳しく評価し、結果にコミットした活動を目標としている。

- ①地域住民との関係づくり（愛宕商店街での聞き取り等）
- ②啓発活動（マグカップ配布、防災まつり等）
- ③スキルアップ（防災キャンプ、評価の仕組みづくり）

これらを循環させながら、より地域に根づいた活動にしていくことが求められる。

成果と課題・今後の展望

現時点では地域でのイベントは単発であり、加えて自己啓発型のものも少なくない。今後は、実施場所を地域の公民館や商店街の空き店舗など、より地域に身近な場所にしていく必要がある。加えて、地域の団体との長期的な連携を進め、その団体の活動を支援するなど、本来の主役である住民を支える立場になっていきたいと考えている。

学校名 高知県立高知南高等学校

取組テーマ 震災後の避難所生活における課題の改善

学校や地域の現状・課題

現状として震度 6 以上の地震、2mの地盤沈下、周辺では液状化現象が発生し、津波浸水 2～3mが想定されている。課題として、赤十字血液センターが移転した今、南高校統合後の避難場所の確保が心配される。さらに、近隣工場の安全性の確保や宇津野トンネル以南地域の避難所が少ない。

アクションプラン

- ・高知県立大学主催の震災時の避難所運営についての講演への参加。
- ・外国人観光客向けの防災パンフレットの作成。
- ・校内向けに避難所生活の課題に対する意識調査の実施と分析。

成果と課題・今後の展望

成果：手作りのパンフレットが外国の方々に好評だった。

パンフレットに写真を入れる。

課題：避難所生活ではプライバシーが守られていないこと。

今後の展望：ダンボールを用いた避難所生活のシミュレーションをする。

パンフレットに写真を入れる。

学校名 高知県立幡多農業高等学校

取組テーマ 幡多農 防災意識向上プロジェクト

学校や地域の現状・課題

【防災活動内容の概要】

本校における地震・津波の被害想定は、震度6強、30cmの津波到達時間・津波最大浸水深は高台に位置しているため設定なしとなっている。古津賀地域の中では、高台に位置しており、多くの方が避難してくる避難場所に指定されている。校内では、定期的に行う、避難訓練や防災に関する講演会を通して防災意識を高めている。

また、課題研究においては災害時に調理道具や調味料がなくても作れる防災植物の加工品づくりとレシピの開発、有毒な植物の見分けがつかうような動画作成に向けて取り組んでいる。

アクションプラン

(これまでの活動や今後の取組予定など)

- 全校生徒に向けて防災アンケートの実施
→12月に実施予定
- 校内での高知県津波サミット等での活動報告
→2月に実施予定
- 校内に防災ポスターの貼り出し
→現在張り出し中
- 防災植物レシピの開発
→現在作成中
- 生徒会を中心として、防災委員を立ち上げる。
→防災委員を各クラス1名配置
- 地域の方との連携強化
→7月11日、校内にて避難所運営ゲームを古津賀地区の方(10名)と実施
- 有毒植物の見分け方を紹介する動画づくり
→現在課題研究にて作成中

実践校の決意表明

高知県立室戸高等学校

私たちから室戸へ

【室戸高等学校】

室戸高校の防災のテーマは「私たちから室戸へ」です。私たちの学校では、生徒の防災意識が足りないことが課題となっています。

私たちは今年度、室戸高校の防災活動をより活発にするため、たくさんのお話し合いを行いました。これから、私たちから他の生徒へ、他の生徒から家族や地域の人々へと、命を繋ぐ防災活動を広めていきたいと思っております。

高知県立高知東工業高等学校

防災意識の高い
工業技術者を
目指す

【高知東工業高等学校】

私たちの決意表明は、「防災意識の高い工業技術者を指す」です。

本校は、今年度防災活動などの役割をもつホーム役員を設置し、津波サミットの活動や防災活動を全校生徒に広めてきました。

今後は地域にも活動を広め、生徒には防災活動に積極的に参加してもらえるような環境づくりを行いたいと思っております。災害時には少しでも役に立つ存在であるよう、最大の知識と意識に富んだ工業技術者を指します。

高知県立岡豊高等学校

災害時に生き延びる
ために考えを深める

【岡豊高等学校】

私たちのテーマは「災害時に生き延びるために考えを深める」です。

MY サバイブマップ作成し、どこで災害が起こっても落ち着いて避難所に行くことができるようにします。

さらに災害時、しっかりとした行動がとれるよう、その場でどのようなことが起こるかを想定し、そこでどのような行動をとり、対処すればよいのか等の考えを出し合い、訓練を行います。考えを共有することで、自分一人の視点では気づけなかった部分を知り、より多面的な考えに深化します。

高知県立高知南高等学校

避難所生活に
目を向けよう
～プライバシーを
確保するために～

【高知南高等学校】

私たちの決意表明は「避難所生活に目を向けよう、プライバシーを確保するために」です。

特に、プライバシーの確保に重点を置いて活動してきました。そこから対策と知識があれば、避難所生活の課題であるプライバシーの不足が改善できるのではないかと考えました。

皆さんにも避難所生活にもっと関心をもってもらえるように努力していきたいと思っております。

高知県立高知丸の内高等学校

知識×行動
＝命を守る

【高知丸の内高等学校】

私たちの決意は「知識×行動は命を守る」です。

知識の面では、今私たちが作成している防災新聞をもとに、防災に対する知識を増やし、行動の面では避難訓練や応急処置訓練など、いざという時に適切な行動がとれるように準備しておくことが、命を守ることに繋がっていると思っています。

高知県立大方高等学校

ふるさとの人と未来
を守るために、私
たちは行動します

【大方高等学校】

大方高校の決意表明は「故郷の人と未来を守るために私たちは行動します」です。

私たちは、防災活動を通して、自分の命も、他者の命も守りたいと強く思えるようになりました。

黒潮町の人々の命と未来を守るために、地域に出向き、共に考え、行動します。

高知県立幡多農業高等学校

一歩ずつ前進
→命を守る

【幡多農業高等学校】

私たち幡多農業高校の決意表明は「一歩ずつ前進、命を守る」です。

私たち幡多農業高校は、7つのアクションプランを設定し、防災・減災に向けた取組を進めています。

今後は学校内だけではなく、地域の方々や世界に発信していくことで、一人でも多くの命を守れるような活動に繋がっていきたいと考えています。今後、幡多農生にしかできないことは何かということについて日々模索し、いずれ起こるであろう南海トラフ巨大地震に備え、一歩ずつ前進していきます。

高知県立中村高等学校

地域との連携で
災害に強い街づくり

【中村高等学校】

中村高校の決意表明のキーワードは「地域との連携で災害に強い街づくり」です。

今年、私たちは、被災地訪問や防災キャンプ、地域の方々へのインタビューなどを通し、様々な防災に関する知識を深めてきました。

今後の決意として、身に付けた知識を地域や学校に発信し、共に協力し合い、防災活動に取り組むことで、災害に強い街づくりに取り組んでいきたいと思えます。

高知県立宿毛工業高等学校

防災の達人を目指す

【宿毛工業高等学校】

宿毛工業高校の決意表明は「防災の達人を目指す」です。
宿毛工業高校は、地震に備え、様々な知識を蓄えます。地震発生後にどのような行動をしなければならないのかをよく学習し、訓練を行い、被災者をゼロにします。物作りを通して、避難準備を進めていきます。必要なモノを工業技術によって生み出す努力を行います。

世の中で、役に立つことのできる工業技術者を目指し、地域に貢献することを誓います。

高知県立宿毛高等学校

生きるために
「今」行動する

【宿毛高等学校】

宿毛高校の決意表明は「生きるために、「今」行動する」です。

一人一人が命を考え、「今」できることを行動します。

高知県立清水高等学校

一人も命を
落とさない
土佐清水を目指す

【清水高等学校】

我々清水高校生は、「世界津波の日・高校生サミット in 黒潮」で採択された『私達は学びます・私達は行動します・私達は創ります』の3つを重んじ、市民・県民の防災に対する意識や災害に関する知識を持ち、高め、世界に誇れる高知県にするための礎を築き、高知県に貢献できるよう、日々努力してまいります。

その為にも、我々若き防災大使が積極的に地域の防災活動に参加・協力し、一人も命を落とさない土佐清水市を目指すと共に、このような催しを開催していただけることに感謝し、少しでも多くの場を利用して防災活動の幅を広げ、世界に誇れる地域社会を築いていくことをここに表明します。

高知市立高知商業高等学校

高めよう防災知識

【高知商業高等学校】

高知商業高校の決意表明は「高めよう防災知識」です。
私たち高知商業高校のテーマは、防災の知識向上・意識向上です。私たちは津波サミットに参加したことで、防災に関する知識や意識を向上させることができました。

全校生徒の意識を高めるためにも、今後の取組や課題を私たちが発信していきます。そして、実際に震災が起こった際にたくさんの命を助けるため、地域の方たちとの交流を深めていきたいと思えます。

高知高等学校

取り組みの 継続と進化

【高知高等学校】

高知高等学校の決意表明は「取組の継続と進化」です。今年度は、校内や通学路における防災や、地域との連携に取り組んでいます。多くの取組を行いました。まだまだ充分ではないと考えています。今後も11月上旬、避難器具を使用した避難訓練。令和2年3月11日、サニーマート山手店・旭東小学校区防災連合会との共同防災イベント。令和2年1月～3月にかけてJRの防災の取組を実施予定です。

来年度も、それぞれの取組を継続しつつ、進化させたいと考えています。

明德義塾高等学校

世界に広げよう 防災意識

【明德義塾高等学校】

私たちの決意表明は「世界に広げよう防災意識」です。留学生が多い本校では、どのようにしたら留学生の防災意識を高めることができるかを考えています。そのために易しい日本語や、留学生の母語を用いて、防災教室を開催したり、震災対策カードを作成したりしています。

これからは生徒同士で、防災意識を高めていけるような機会を増やしたいと思っています。このような活動を続けて、一人一人の防災意識を明德だけに留まらず、世界に広げていくことを目指します。

土佐塾高等学校

私たちは深めます

【土佐塾高等学校】

土佐塾は山の上にあります。それが関係しているか分かりませんが、生徒全体の防災意識が他校よりも低く感じます。意識改善のため、私たちは3つのことをやりたいと思っています。1つ目は、備蓄品の保管場所や備蓄品の内容に関して説明した動画を制作し生徒全員に観てもらふこと。2つ目は、生徒主体の防災委員会を開き、防災に対する意識を向上していくこと。そして3つ目は、過去に震災で被災した方を招き、災害に対する恐怖であったり、命の尊さを学ぶことです。

加えて、9月に北海道で開かれた世界サミットで学んだこと、そして今日この場で学んだことを踏まえて、学校全体としての防災意識を深めていきたいと思っています。

太平洋学園高等学校

支える防災

【太平洋学園高等学校】

太平洋学園高等学校の決意表明は「支える防災」です。支えられる防災から支える防災に。防災の主役である住民の方々が前に出て、進めていける防災にします。

地域で一丸となって災害に立ち向かえるように、今から住民の方々と共に考え、行動します。

高校生代表挨拶

高知県立清水高等学校 1年 岡崎 裕大

本日は、高知県高校生津波サミットを開催していただき誠にありがとうございます。本日のサミットで発表された学校だけでなく、多くの高校生がこの場に集まったことは、高知県の高校生が防災に対して強い関心を寄せていることの現れだと思えます。そして今日のサミットを通じて、その思いを共有し、お互いに伝え合ったことで、これからの高知県の未来を切り開いていこうとする力強さを感じました。

私が通う清水高等学校は、高知県西部の土佐清水市、有名な足摺岬に近い場所に位置しています。四年後を目途に校舎の高台移転が計画されているものの、現在の校舎は南海トラフ地震に伴う津波によって浸水すると予測されています。

そのように厳しい状況にある本校が高校生津波サミットに参加するのも、今年で三年目となります。校内では、ホーム役員として置かれた防災委員を中心とした活動が定着しつつあります。昨年からは、避難経路の安全性を高めるための整備が進み、また生徒による清掃ボランティアが行われました。また校内のみならず、土佐清水市や、地区の自治防災組織との連携にも取り組んでいます。これまでの知識を蓄える活動から、実際の避難行動につながる活動へと踏み出していると思えます。

私は、7月に宮城県への被災地訪問に参加し、多賀城高等学校の皆さんとともに、被災地域を実際に自分の足で歩きながら、自分の住む高知県、また土佐清水市が被災したとき、自分たちがどのような行動をとるべきか改めて考えさせられました。震災の爪痕を目の当たりにし、この災害から得られた教訓を風化させないという現地の方々の思いを受け取りました。

高知県は太平洋に面して、東西に広く伸びており、一方で面積の多くを山地が占めています。それぞれの地域の実情や、抱えている課題も異なり、地域によって防災に対する意識や取組に差が生じていると言われていています。だからこそ、このように県全体の高校生が集まり、お互いの現状を学び合うことによって、防災を自分ごととして考え、課題解決のための新たな糸口を見つけることができるのではないのでしょうか。

今年は台風や大雨による災害が、日本全体を襲い、甚大な被害が発生しています。高知県も、これまで何度も台風や大雨による被害を受け、様々な対策が行われてきました。大雨や地震という自然の営みは止めることができませんが、私たちの行動によって被害を最小限にすることは可能です。そのためには、正しい知識を身に付け、自ら考え行動することが重要です。災害に負けない、強くしなやかな高知を創るために、この津波サミットに集まった私たち高校生が、学んだことを自ら実践し、地域や周りの人たちに伝えていきましょう。

私たち高校生が積極的に学び、発信していくことで、災害からすべての人が命を守ることのできる未来を実現することにつながると信じています。皆さん、力を合わせ、一緒になって行動していきましょう。

本日は、どうもありがとうございました。

感想

■ 高校生

- ・ 様々な学校の、様々な対策を知ることができました。幡多農業高校の野草調理や、高知東工業高校のペルチェ素子発電など、学校の特色を活かした取組に驚きました。
- ・ 参考になる内容がたくさんあり、とても勉強になりました。講演を下さった沼崎さんから聞いたことなどをもとにし、これからの防災活動をより良いものにしたいと思いました。そして、私達がいっしょにいろいろなことを地域の人に伝え、死者数0を目指して助ける人、助かる人になりたいと思いました。
- ・ 各高校が集まって意見を出し合うことで、防災に対する意識がより高まり、考えが深まりました。この活動がより多くの人に広まって欲しいです。
- ・ 今後ともこのような催しが継続され、進化していけば良いと思いました。また、グループ協議の考える時間をもう少し頂ければ良いと思いました。
- ・ 生徒それぞれの防災意識が低いので、このサミットに参加して得た情報などを来年度から始まる防災委員の設立などに活かしていきたいと思いました。様々な視点からの発表を聴けて勉強になりました。
- ・ 自分たちの学校には何が足りないのか、とてもよく分かりました。全てがとても良い経験で、多くのことを学ぶことができました。来年も参加したいと思っています。
- ・ 自校の新たな課題を見つけ、同じ課題を他の高校とシェアすることができました。
- ・ 全ての話がとても貴重だと思いました。役立つことをたくさん学ぶことができ、参加して良かったと思います。
- ・ 他校生徒とのディスカッションがあれば、もっと交流を深め、自校の防災活動に向けた刺激を受けられると思いました。
- ・ 自分たちもやってみたいと思う他校の取組が多数ありました。その実現に向けて、しっかりと取り組んでいきたいです。
- ・ とても有意義な時間でした。課題が見つかったのも、さらに防災活動に力を入れていきたいです。
- ・ 普段あまり聞けない貴重な体験を聞くことができ、よかったです。とても良い一日となりました。
- ・ 他校の高校生のみなさんと意見発表を行い、防災の知識や意識を、より一層持つことができました。

-
- ・私が今住んでいる地域では、津波についてあまり重要視する機会がありません。理由としては、近くに海がないことと、川があっても標高自体が高く、その心配が想定されていないことです。ですが、グループでの協議や講演を聞くことで、「想定」の概念がかなり崩されました。この経験をどう生かしていくかが、これからの大きな課題になりそうです。
 - ・一日を通して、自然災害や気象災害について学び、自分が知っていたことだけではなく、新たに災害についても学ぶことができました。自分が知ったことを家族にも伝えて、災害に対する準備や行動をしていきたいです。
 - ・講演では自分の知らない震災のことについて、聞くことができてよかったです。グループ協議では、とても有意義な交流ができたと思いました。
 - ・もっと他の高校と「話し合う」ことをしたかったです。いろいろな高校の活動内容を知ることができて良かったです。今後の活動に活かしていきたいと思いました。
 - ・津波サミットに参加するまでは、正直、防災意識は高いとは言えなかったですが、話や発表を聞いてできることはしたいと思えるようになりました。
 - ・写真などを活用していて、発表が分かりやすかったです。沼崎さんの講演での「てんでんこ」のビデオ紹介が印象に残っています。
 - ・被災地訪問に参加し、現地に行かなければ分からなかったことを知ることができて、津波サミットはとても重要な取組だと思いました。また、他校の方々も、本校では行っていない（思いつかなかった）活動をしていて、今後の防災の取組の参考になりました。
 - ・他校がどのような活動をしているかを聞くことができ、すごく参考になりました。話を聞いて、地震はもちろん、他の災害の対策も考えようと思いました。
 - ・他校の意見を聞く良い機会になったと思います。今日学んだことを、自分の学校で発信することで、これからも防災活動に取り組んでいこうと思います。
 - ・最初は津波サミットに参加しなくてもいいだろうと思っていましたが、他校との交流は私たちの活動の道しるべになり、参加して良かったと思いました。
 - ・今回、津波サミットに初めて参加させていただきました。津波について、とてもよく考えていることが強く伝わってきました。私たち愛媛県の人達も、防災について、今以上にもっと考えていく必要があると思いました。（県外参加高校生より）

■教職員・その他関係者

- ・大人に任せておけば安心・安全という概念は捨てて、自分達が考えて行動しなければと思って行動に移してもらいたい。その時には必ず、大人の意見や考え、弱者の立場にも目を向け、広い視野に立って、考えられるようになってもらいたいです。
- ・次の世代のリーダーになられる方々、防災士をとっていただき、組織化できたら高知県独自の取組につながると思いました。
- ・災害発生時の復興の原動力になってほしいです。自発的活動のできる高校生の育成とともに、教職員の意識の変化が必要だと思えます。
- ・防災のこともその他のことも、自分で判断できる力が大切であるため、様々な経験を通して、自分で判断できる力を身につけて欲しいと思いました。
- ・実際に被災地に行ったことのある生徒や講師の方に来てもらい、対策を考えて、備えてほしいし、自分の学校で周知してほしいです。先生から伝えるより、生徒から生徒に伝える方が伝わると思えます。
- ・これからも地震・津波や様々な災害について、学びを深め、自分の命だけでなく家族や周りの人の命も守れるようになってもらいたいと思いました。
- ・若きリーダーとして地域の防災イベント等に積極的に参加してもらい、自助、共助の意識がさらに向上していくことを期待しています。「助けられる人から助ける人」へ育成する人づくりを期待します。
- ・まずは、「備えること」の重要性を家庭や地域、祖父母たちに話してほしい。高齢者ほど避難行動が、体力的にも心理的にも遅くなる傾向があるので、そのような高齢者層の祖父母世代の命を守る為にも、豪雨等（これからは、臨時情報）に対する事前避難の話を積極的に行ってほしい。孫に言われたら祖父母も納得すると思えます。
- ・こういった活動を継承し、よりよい防災活動をしていけるよう、一人でも多くの命を救えるよう、取組を自分たちだけのものにせず、どんどん情報を発信してもらいたいです。
- ・地域の担い手としての役割はもちろんですが、他の地域に住むようになって、この活動で学んだことが有効になると思うので、防災意識を広めてほしいと思えます。
- ・県内の高校生が集まって何かをするということは、準備など含め大変なことと思いますが、子どもたちの生き生きとした姿が見られる機会はとても貴重だと思えました。一般の方、保護者、他の教員がもっと多く参加できればと思います。

-
- ・高校生自身から「防災意識が低い」と言わせてしまっている現状を歯がゆく思いました。学校単位の避難訓練を、小、中、高+aで同日、同時で実施などの取組をしてみると、学校から各市町村、県へのつながりにもなると思いつきました。
 - ・土木、建築を学んでいる学校の取組も聞いてみたいです。
 - ・東部や西部など、違った会場ができればと考える。実際に見て学ぶことも、知識として必要であると考えます。県内を2日間でバス等で視察したり、碑文や歴史から学んだりすることも良いのではないのでしょうか。
 - ・新たな取組を各学校に求めるのではなく、各学校の実態に応じて、防災活動を継続して行い、PDCAサイクルで検証し、改善していくことが大切ではないだろうか。
 - ・とても素晴らしい取組だと思いました。今後もこのような取組を続けていくとともに、地震・津波だけではなく、風水害も含めた様々な災害に対しての取組も検討していただければと思いました。
 - ・高校生の5年後、10年後は、高知県の社会を担って活躍していることと思います。津波サミットのように、他者との対話的で深い学びを通して、防災力を高め、自分の（新しい）家族を守るだけでなく、社会人としての企画力、運営力、プレゼン力も身につけてほしいと思います。また、学校と地域だけでなく、住んでいる地域や防災関連商品を持つ企業さんとの交流も、高校生には良い機会になるのではないかと思います。
 - ・決して遠くはない未来に起こるといわれている南海トラフ地震について、考え学ぶ良い取組だと思えます。南海トラフ地震のことや自分自身に向き合う良い機会となりました。
 - ・未来の防災リーダーを育成するためには、こうした津波サミットのような取組は、とても重要だと思えます。今後は、津波をベースにしつつ、防災全般について考える機会も必要かと思えます。
 - ・消防、警察の方などの話を聞き、避難後に救助がどのように来るのか、救助が来るまでに何をすれば良いのかを考えられるようにするのも良いと思えます。
 - ・被災地訪問は可能な限りより多くの学校の参加ができれば良いと思いました。発表した生徒はどの学校も熱心に取り組んでいると感じました。
 - ・講演のお話がとても重みがありました。各学校の取組が具体的な行動に結びついて素晴らしいと思いました。
 - ・高校のみで終わらず、大学、就職した後も、防災意識を広める使命感を持ってほしいと思います。

高校生へのメッセージ

- ・積極的な意見や質問があり、津波や防災について、身近なこととして考えられている様子を見て感激しました。高齢者、障害者、小さな子供達のこともしっかり守ってくれるような対策を、これからもどんどん考えて実践してください。実際の場面では、きれいごとでは済まないかもしれないけれど、想定しておくことはとても大切だと思います。いろいろな機会を生かして、これからの防災学習に取り組んでほしいです。
- ・一人一人が大切な命です。知ってるあなたも、知らないあなたも、みんな大事な命。大切な命を守れる人になってください。
- ・今後も活動を続けていってほしいです。近い将来、必ず来るといわれている南海トラフ地震に備えることの重要性を、みなさんが意識してくれることを願います。
- ・“学ぶこと、行動すること、創ること”は防災だけでなく、全ての分野に通じる姿勢です。今日の学びをこれからの生かしてほしいです。
- ・今皆さんが頑張っているひとつひとつが、一人でも多くの人を救うことにつながります。ぜひ学び続け、行動しつづけてください。
- ・若さは強みです。その力を生かして、地域に貢献できる人に育ってほしいと思います。皆さんには、まだ引き出すことができてない力や、気付いてない力があります。その力を生かすために、広い視野をもって、取り組んでください。
- ・是非、助かる人から助ける人となれるよう、今後も学び、行動する取組を、引き続き頑張ってください。
- ・サミットへの事前準備、プレゼンの練習等、本当にお疲れ様でした。災害の規模が大きければ大きいほど、避難生活が長期化し、病気や障害を持つ人、妊婦さん、外国人など様々な人が集まります。どうか、防災力を高めるとともに、他者への寛容な態度、マニュアルや想定にとらわれすぎない臨機応変に対応できる力、柔軟性を身につけてほしいと願っています。いざという時、地域の若い者が地域の力となりますように願っています。発表をしていただきありがとうございました。
- ・熱心に取り組む高校生の言葉には、勢い、情熱、本気を感じることができました。高校生たちがこの「本気」を続けることができる環境づくりに、大人が協力しなければならないと思いました。
- ・高知県の未来を任せる人材として頼もしく思いました。防災を自分事として捉え、学び、今まで以上に命を守る教育として広め、行動してください。
- ・皆さんの今日の発表や意見交換は大人へのエールとなります。地域の自主防災会にも伝えます。ありがとうございました。

令和元年度「高知県高校生津波サミット」報告書

発行 令和2年3月

発行者 高知県教育委員会事務局 学校安全対策課
〒780-0850 高知市丸ノ内1丁目7番52号
TEL : 088-821-4533
FAX : 088-821-4546



トラフ博士



ゆうどうくん



たいさくくん



高知家の防災



ヘルパちゃん



つなみまん



じしんまん

高知県防災キャラクター
©やなせたかし